

第三二回 二・一一思想と信教の自由を守る静岡県西部集会

「二月十一日」は、何の日ですか？

◆二月十一日。戦前は「紀元節」と呼ばれ、初代天皇と考えられた「神武(じんむ)天皇」が即位したことを祝い、その子孫(天皇)による統治は永遠であると教えてきた天皇制の出発の日です。

◆その根拠の「日本書紀」には、「辛酉(かのとり)年春正月一日(元旦)即位」と記されていますが、明治政府は、その日を太陽暦に換算して「紀元前六六〇年二月十一日」と決めました(一八七三年・明治六年)。

◆しかし、明治政府の説明が正しいとすると、紀元前六六〇年頃の日本は、縄文時代。文字や暦は勿論のこと、階級もなく、ましてや天皇もいない時。つまり天皇制は、まったくの「架空」から出発したのです。いわば「歴史の偽造」と言うべきでしょう。

◆しかし明治政府は、一八八九(明治二二)年二月十一日に「大日本帝国憲法」を發布し、「天皇ハ神聖ニシテ侵スヘカラス(一章第三条)」と定め、国家とある宗教を一体とし、「天皇・現人神(あらひとがみ)」を崇めさせ、「靖国神社」を最大に利用し、全国民をアジア諸国侵略へと突き進ませたのです。

◆それ故に敗戦四ヶ月後の十二月十五日、政府は、それらの過ちから、「神道指令(国家神道廃止)」を出して、国家と宗教の関係を断ち切ったのです。

◆しかし戦後、「二月十一日」は様々な形で顔を出し、ついには一九六七年に「建国記念の日」と定められて現在に至っています。

◆今回は、日本の「国家と宗教」の本来の関係を確かめつつ、どこでどう間違ったのかを改めて聞き、今後、再び過ちを繰り返さないための道をご一緒に考えたいと願っています。 ■ぜひご参加ください！

日時 二〇一二年 二月十一日(土)

午前十時開会(開場九時半)〜正午過ぎ閉会予定

場所 浜松市地域情報センター(東田町)

講演 「国家と宗教の関係」

…再び、過ちを繰り返さないために」

講師 小林 眞氏(キリスト教牧師・本会の呼びかけ人)

※この集会は、約二〇団体の共催にて開催。(連絡先 浜松市中区紺屋町三〇一
〜一五 小林)